

わたしの聖戦

女性が働くということ

医学ジャーナリスト・医学博士

植田美津恵

連204載

健康の定義とスピリチュアル

日本に厚生労働省があるように、国際機関にも似た組織がある。世界保健機構、一般的にはWHOと呼ばれる。

人間の健康を基本的人權のひとつと考え、全ての人々が可能な最高の健康水準に到達することを目的として1948年に設立された国連の専門機関であり、世界規模で流行するような感染症や災害時の緊急対策などを担う。そのWHOが健康の定義というものを公表している。医学を学んだことのある人なら誰もが必ずといっていいほど触れる、以下の一文だ。

「健康とは、病気ではないとか、弱っていない

ということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます」。

英語文の日本語訳のため少々読みづらいが、健康とは病気の有無という体だけの問題を問うのではないという点がミソである。

1951年以来、現在に至るまでこの定義は変わっていない。ただ一度だけ、1999年に改定案が提出されたことがある。肉体的 (physical)、精神的 (mental)、社会的 (social)、精神的 (spiritual) の3つの要素に

「ユアル」を加え、状態 (state) ステイト) の前に「dynamic (ダイナミック)」を挿入しよう、という内容だった。

ダイナミックは、この場合「一連の」という意味で、健康と疾病とはつながっているイメージを喚起させる狙いがあった。



これは納得できるだろう。無病息災ではなく一病息災の時代といわれるようになって久しく、加齢とともに衰える心身とうまく付き合いながら日々を生きている人は多い。健康と疾病は明確に切り離されるのではなく、個人にとっては同じ土壌に

あるともいえる。

しかし、問題は「スピリチュアル」だ。まず、日本語に訳するのが難しい。魂の・宗教的な・根源的な・霊的な、あえて訳せばこんな単語が浮かんでくるが、どれも健康の定義に組み込むにはやや抵抗がある。日本では

スピリチュアルといえども、見えないものが見えたり、死者と親しんだり、などという何やら怪しげな雰囲気がつきまとう。WHO加盟国の中には、この改定案に賛成した国もあるが、多数決では両者とも「見送り」となり、今日に至っている。むしろ、日本は反対した国のひとつだった。

一方で、健康の定義にスピリチュアルを挿入することに對し、日本でも賛成する声は当初からあった。命を尊ぶ気持ちやその人の自然治癒力を生かそうとする治療に力を入れていく人など、スピリチュアルの日本語訳は

ともかくとして、「その人らしい」という意味を含む言葉としてスピリチュアルの重要性を説く意見はこれまでも耳にしたものだ。実は、私も「ダイナミック」「スピリチュアル」の導入は、ともに賛成である。

健康の定義が誕生して70年、改定案が検討・棄却されて20年が経過した。時代が変わり、国際的に異国の人と接する機会が増え、日本にも多くの外国人観光客が訪れるようになってきている。長寿にはなったものの現代人は不安定でどこか自分を見失っている。偏った宗教色を嫌う気持ちはわかるが、このあたりで、再度健康の定義を見直してみたらどうだろう。

「自分にとってスピリチュアルな健康とはいったい何?」と、それぞれにじっくり考えてみるのもまた楽しいのでは、と思いを巡らせている。

イラスト・伊藤栄章